

# NEW CROWN 授業実践事例

BOOK 2 LET'S READ 2 授業例①

U.A. 先生

## 指導計画表

(全6時間)

時間	学習内容・主な活動
1	■Pre-Reading ・カンボジア Quiz ・新出語句の導入 ・オーラルインタラクション ・黙読
2	■In-Reading① ・新出語句の導入 ・音読 (p103&p104)
3	■In-Reading② ・新出語句の導入 ・音読 (p105&p106)
4	■Post-Reading① ・音読 (コーラス読み) ・サブタイトル作り
5	■Post-Reading② ・summary
6	■Post-Reading③ ・平和への社会貢献について考える

## 実践例

### 1. グループ活動を取り入れた

#### 「読むこと」

小学校における外国語活動が実施されるようになって、4技能の中でも「聞くこと」「話すこと」の分野は、慣れ親しんでいる生徒が多い。逆に、「読むこと」「書くこと」に関しては、苦手意識を抱いている生徒が多い傾向にある。発想が乏しかったり、自信がなかったりする分野で、個人ではなく、グループ活動を取り入れることで、知識が共有でき、より理解を深め、さらには意欲的に「読むこと」へつなげることを期待したい。

また、生徒が苦手意識を持つ理由の1つに、1つ1つの単語の意味が分からないために、長文の先へ進めない、最後まで読む気力がなくなってしまう、という声を聞く。そこで、グループ活動を通して、事前に知っている知識を共有し、題材に対する素地をある程度作ってから、本文読みへ入るという流れを取り入れたい。その際、一文一文を和訳するのではなく、要点をつかみ取ることで、作者の伝えたい意図を把握することに、重きを置くようにすることも大切だ。

本教材は、270 words という長編である。本来ならば、全文を通読して読み深めていくという過程が望ましいが、生徒にとっては、これまでに読んだことのない語彙数であるため、本文の内容を区切り、全5時間で授業を計画することにした。

### 2. 授業の実際

#### 1) 1時間目

教科書を開く前に、地図上でカンボジアの位置を確認し、カンボジアについて知っていることをグループ内で出し合う。

子どもたちには身近ではない「地雷」がテーマであるため、クイズ形式でカンボジアについて、また地雷について、知識の共有を図る。

#### ◆カンボジア Quiz の一例

1. カンボジアの人口

ア) 約 1.4 億人 イ) 約 1.4 万人 ウ) 約 14 億人

2. カンボジアの言語

ア) カンボジア語 イ) 英語 ウ) タイ語

3. 通貨

ア) ドル イ) ウォン ウ) リエル

4. カンボジアで人気のスポーツは？

ア) 野球 イ) キックボクシング ウ) サッカー

5. 世界にはどれくらいの地雷が埋められているでしょう。

ア) 1 億以上 イ) 5 千万位 ウ) 500 万位

6. 1 個の地雷撤去にかかる費用は？

ア) 300 ドル～1000 ドル

イ) 100 ドル ウ) 1 万ドル

7. なぜ地雷が埋められているでしょう。

直接的には本文内容とは関係がなくても、異文化理解の視点や、生徒の目線に立ち日常生活と比較しやすい内容で、クイズを作成することを意識したい。また、その国の背景を知ることで、本題材のねらいに近づくことができると考える。

長文を読む際には、自分の持っている知識や経験から、内容を推測したり判断したりしていくことで、理解を深めていくことができる。子どもたちにとっては、何も知らない状態で教科書本文に入るよりも、知識の共有をグループ内で行うことで、内容理解への準備（第一歩）となるだろう。

さらに、映像やピクチャーカードなどを使ったオーラルインタラクションも加え、生徒たちがこれから長文を読む上での素地を整えた段階で、本文読み・黙読となる。

黙読の際、目安の時間を設定し制限することで、集中力が増し、分からない単語で立ち止まることを防ぐことができる。また、2つの課題、①最後まで目を通すこと、②段落ごとの概要を捉えることを課すことで、推測しながら読もうとする力の育成が図れる。さらに、各段落に1か所、気になった単語や文章ヘラインを引くようにすると、主体的に読む姿勢へとつながるだろう。この段階では、読み取れた内容に生徒間で差が生じるはずである。そこで、確認として簡単な内容理解の設問に取り組みせ、次の時間へつないでいく。

## ◆黙読後の簡単な内容理解

1. 本文の内容に合うように順番よく並べましよう。

- ( ) 20歳の時に戦争が終わり、人生が変わった。
- ( ) 地雷を埋めた
- ( ) ある日、牛車が地雷を踏んでしまった。
- ( ) カンボジア中の地雷を除去するために何かしよう決心した。
- ( ) 無理矢理兵士にさせられた。
- ( ) 地雷博物館をオープンした。

## 2) 2時間目&amp;3時間目

最初に、本時の内容に関する新出語句の確認を簡単にいき、前時の復習をしていく。できれば、カンボジア以外の国の地雷の現状も紹介したい。

## ◆簡単な新出語句の確認の一例

左側の英語が表す日本語を選び、線で結びましよう。

force	・	・	立ち去った
bury	・	・	取り除く
left	・	・	～を強制する
choice	・	・	選択すること
remove	・	・	～を埋める

新出語句の確認後、音読で読解を深めていく。音で単語を聞く・読むことで、黙読では気付かなかった言葉に気付かせることが目的だ。

さらに、音読の後に段落ごとに気になった1文または心に残った1文に各自ラインを引かせる。その後、4人程度のグループで各自ラインを引いた1文について、意見交換を行う。その際、理由や自分の意見なども付け加えるように促す。グループ内で話し合いを行うことで、内容理解もより深まり、段落の要点もつかめるようになる。その後、話し合いの結果をクラス全体へ発表する。個人の意見では自信がないことでも、グループの意見としては抵抗なく発表できるだろう。また、人の意見に耳を傾けることで、内容理解がさらに深まることを期待したい。

この過程を通して、作者の思いに気が付き、文章を深く読み取らせていくことができるはずだ。

最後に、戦争が終わったときのアキラさんの気持ちをグループで話し合い、発表させる。アキラさんの「思い」を読み解いていく活動を通して、「平和への社会貢献」というねらいについて深く考えていくきっかけとしたい。

## 3) 4時間目

本文を通読し、段落ごとにサブタイトル作りをグループで考える時間とする。サブタイトルは、文章またはフレーズのどちらでも可とする。

さらに、グループで音読の発表を行う。段落につけたサブタイトルと音読の発表である。その際、各段落に「心に残った1文」を前時で確認してあるので、その場所は大きな声で強調して音読するように指示する。読み手も聞き手も課題意識をもって主体的に「読むこと」へ取り組めるようになるからだ。

## 4) 5時間目

読み取った内容をアウトプットする活動として、要約に取り組みさせる。前時まで実施した、「サブタイトル作り」や「心に残った1文」を利用すると、スムーズに要約へとつなぐことができるだろう。2年生後半の教材から要約に取り組んでいるため、英語力のある生徒にとっては、全て自分の力で英語での要約を取り組みさせたいが、英語への苦手意識を持っている生徒へは、フォロー教材を準備しておきたい。

## ◆フォロー教材の例（指導書より）

Aki Ra is Cambodian. When he was \_\_\_\_\_, he was forced to become a soldier. He had to fight. He also buried \_\_\_\_\_ . ...

## 5) 6時間目

本課のねらいである「平和への社会貢献について考える」時間とする。読み深めた内容をもとに、考えたことを表現する活動である。

アキラさんの「平和への社会貢献」の決意を受けて、「自分にできること」を考えさせる。地雷に限定せず、身近な環境での「平和への社会貢献」と捉えさせると、生徒もイメージしやすいだろう。

できるだけ、教科書にある表現を使って、伝えるように指示する。I decided to ～. I can ～. Let's ～. など使える表現を提示して、活動させると苦手な生徒にとっても、取り組みやすくなる。できあがった英文は、教室掲示をしてシェアリングできれば、学び合いを深めることもできる。

さらに、時間的に余裕がある場合は、アキラさんへの手紙にも挑戦させたい。手紙を書かせる際には、①彼の活動を知っての感想、②自分にできる平和への社会貢献の、2点のポイントを挙げて書かせる。また、本文中にある I was surprised by ～. や I thought ～.などの表現も提示する。仕上がった手紙は、実際に彼が活動している「アキラの博物館」へ送ることで、学習したことを踏まえて「発信する」活動まで広げることも可能だ。

苦手だったはずの「読むこと」の活動が、机上の学習だけにとどまらず、本当に読む価値のある内容に変わり、主体的に「読みたい」気持ちを高めるきっかけになることを期待したい